

8/15

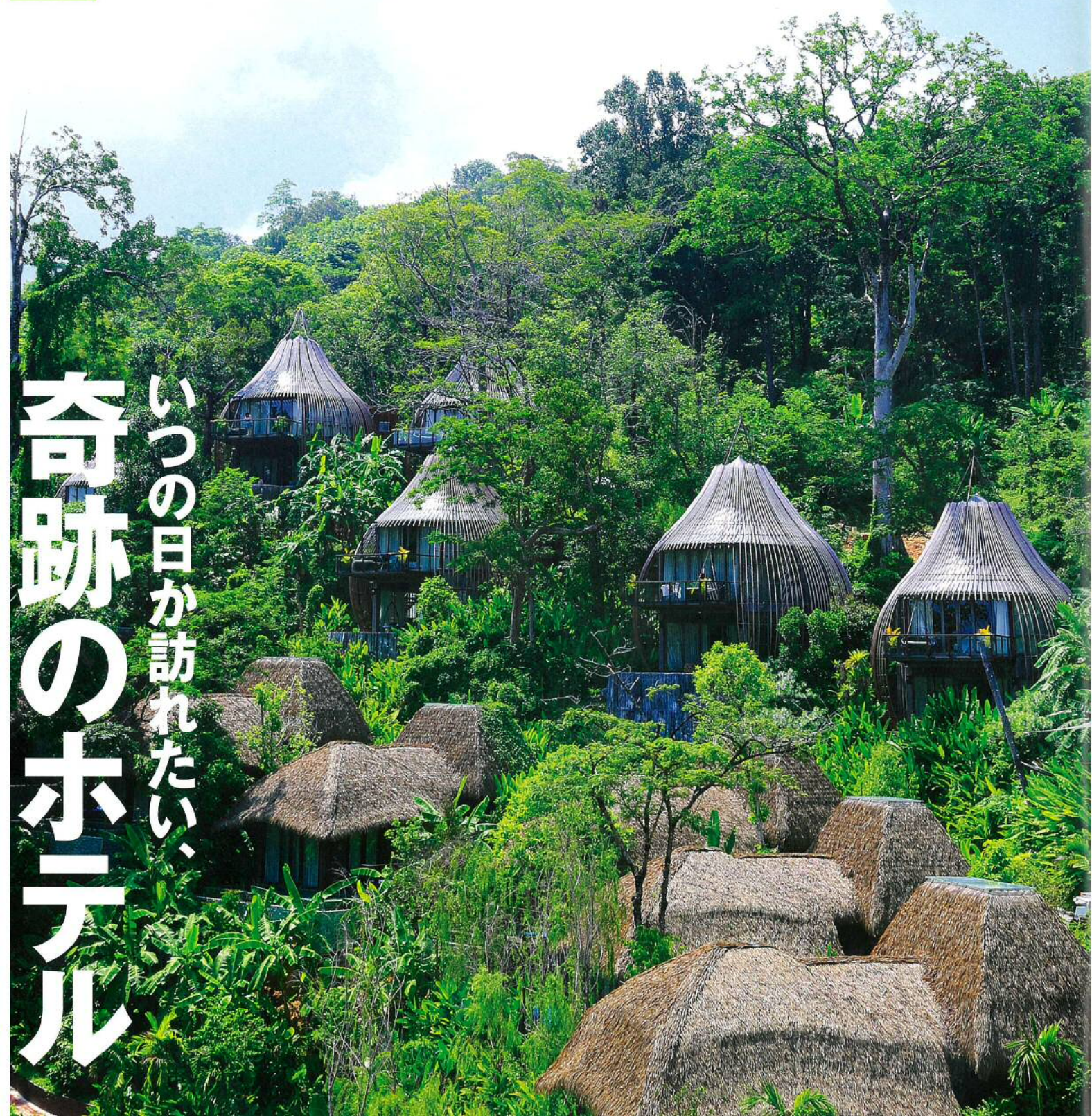
2016 No.411

特別定価 680
yen

pen

with New Attitude

いつの日か訪れたい、
奇跡のホテル



城下町全体がホテルという、新しい発想。



ノジ棟、シオン棟がある河原町エリア。間口が狭く奥行きがある妻入商家の町並みが約600m続き、店舗や飲食店が並ぶ。千本格子や荒格子、袖壁などが、往時の城下町の様子を伝える。



高い吹き抜けがあるサワシロ棟の通り土間は、モダンな家具が配され、心地いい空間に。上がり框(かまち)や唐りガラスの建具が懐かしい。正面2階の櫓の向こうは、201室の渡り廊下。

1609年、徳川家康が大坂城攻略の拠点として築いた篠山城。その城下町として栄えた丹波篠山の地には、史跡や文化財が多く残り、伝統的な武家屋敷や商家の町並みが広がっている。丹波焼の里であり、丹波栗や丹波黒豆、松茸、猪肉など、ブランド食材の宝庫としても有名だ。近年は、里山の豊かな暮らしに魅了された、モノづくりで携わる若い世代が移り住み、新しいコミュニティが生まれている。そんな魅力あふれる町に、昨年10月、「篠山城下町ホテル NIPPONIA (ニッポニア)」が誕生した。

慈しむように再生された、古民家で安らぎの時間。

「ニッポニア」とは、各地の古民家を宿泊施設や飲食店としてリノベーションし、滞在を通して、土地に根付く暮らしや文化を体感する複合宿泊施設のプロジェクト。ネーミングの由来は、トキの学術名「ニッポニア・ニッポン」からで、日本の宝である古民家や町並みを大切に守り、次世代につなげたいという思いが込められている。

その代表となるものが、**「宿」**だ。「400年の歴史の中に溶けこむように泊まる」をコンセプトに、篠山城跡を取り囲むように点在する4棟の古民家を改修し、城下町全体をひとつのホテルに見立てている。「オナエ」「サワシロ」「ノジ」「シオン」と各棟が菊の名前を冠しているのは、旧篠山藩主が当時の将軍から「お苗菊」を拝領したと伝えられ、毎年秋には「篠山市菊花展」が開催されるなど、この地が古くから菊と深い関わりがあるからだ。

4つの建物は、いずれも江戸後期から昭和にかけての歴史的価値の高いものばかり。その建物が最も輝いていた時代に戻すように、慈しむように丁寧に改修が施された。改修時に大量に出たという家具や調度品はメンテナンスをしたり、形を変えるなどして施設内で再利用。そうして土地の文化や建物の歴史を大切にしながら再生した空間だからこそ、一歩足を踏み入れた途端、懐かしさや心地よさに包まれるのだ。11の客室がそれぞれ異なる個性的な表情で迎え入れてくれるのも、ここに滞在する大きな楽しみのひとつとなっている。

まず向かう先は、受付があるオナエ棟。ここでチェックインを済ませた後、各宿泊棟に移動するというシステムだ。明治期に建てられた元銀行経営者の旧宅を改修した建物で、2階壁に設けられた虫籠窓をはじめ、この地独自の建築様式が随所に見られる。格子の扉から、奥へ奥へと空間が広がっていく構造。受付は通り土間にあり、そのそばには滑車の付いた井戸やかまどが残されている。吹き抜けとなった上部へ視線を移すと、煤けた天井や壁が当時の暮らしを彷彿させる。

この棟の客室は5部屋。十蔵を改装した部屋は天井が高く、ゆったりと静かな時間を過ごせるし、離れは中庭と外庭を望める開放的なつくり。主屋の2階の3部屋も、屋根裏部屋のような



HOTELS

オナエ棟は受付やレストランがあるメインの施設。下層と呼ばれる主屋から差し出してつくられた小部屋が、篠山城下町の町屋の特徴だ。

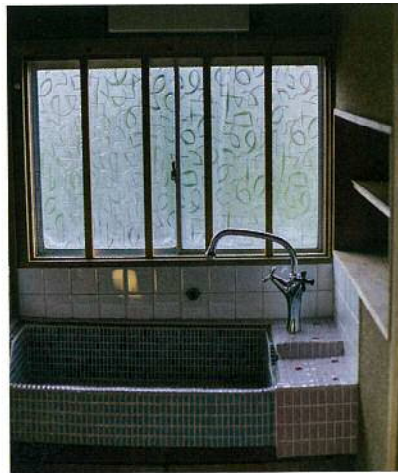
DATA

●兵庫県篠山市西町25 ☎0120-210-289
 全4棟11室 ¥23,000〜 ※1室2名料金、朝食・夕食付き。
 ●アクセス:クルマで大阪市内から約1時間、京都市内から約1時間30分。
 電車の場合、大阪駅よりJR福知山線・篠山口駅まで約1時間10分、篠山口駅から送迎あり(前日までに要予約)。
 www.sasayamastay.jp



ONDER HOTELS

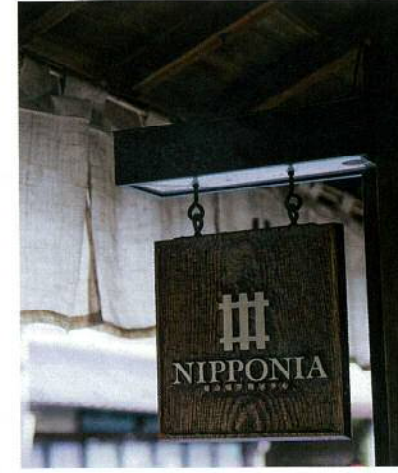
井戸や流し、かまどが残るオナエ棟の通り土間。床には荷車を引き入れるための敷石も。自然光がたっぷり入り、時間帯で刻一刻表情を変える。



サワシロ棟203室。レトロなタイルの洗面台や磨りガラスは昔にタイムトリップしたよ。水まわりは新しく整備されている。



サワシロ棟の通り土間と設けられたコーナー。経年変化で独特の風合いを醸し出す壁とタンなオブジェのコントラストが面白い。



ロコマークは、格や障子をモチーフにデザイン。4棟は町に溶けこんでいるため、このロコがあらわれない暖簾を目印。



オナエ棟主屋の2階の客室に向かう階段から見え、通り土間の吹き抜け部分。長い慶月経を大きな梁を間近に見ることができ。



オナエ棟105室の寝室。段々天井とウグイス色の壁でしっとりした雰囲気。座敷も備えた和室もあり、作業部屋と呼ばれている。



オナエ棟の庭がある中庭。手入れが行き届き清々しい。レストラント101室の和室、103室の座敷に囲まれるように位置。



ディナーコース¥8,000より。「丹波猪の牡丹」コンメ黒豆味噌の香り(¥4,800)。長時間煮込んだ豚肉はやわらかく、スープはピニアで滋味味。前菜系前野郎のガルクイユと並ぶスベシヤリテだ。ランチ、ディナーともコースのみ。



レストラにはオナエ棟の受付対面。ガラス戸に仕切られた4部屋を畳敷きから木の板張りに改修。宿泊客以外も利用できる。



オナエ棟102室は、土蔵を改装。厚い扉の奥には和室のロフトと10畳の薪間が。重厚感のある落ち着いた空間で、静かに過ごせる。

オナエ棟と同じ通り、歩いてすぐのところにあるのがサワシロ棟。ここはかつてお茶屋を営む店舗兼住宅で、玄関の接客台や茶箱にその名残が見られる。江戸後期に建てられた、4棟の中でも最も古い建物で、ここもまた通り土間がある奥行きのあるつくり。表通りに面したメゾネット形式の部屋、座敷を改修した格式のある部屋、離れ土間のある部屋が揃う。

町歩きを楽しみたいなら、篠山城を挟んで反対側の徒歩20分ほどの場所にあるノジ棟、シオン棟がお薦めだ。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されたエリアにあり、間口が狭く奥行きが深い妻入商家が立ち並ぶ、河原町の情緒を堪能することができる。

地元の豊かな食材をふんだんに使ったフレンチも、このホテルの大きな魅力だ。近隣農家から届く新鮮な野菜やブランド牛の但馬牛、特産品の猪など、素材の味わいを最大限に引き出した、目にも鮮やかな料理の数々は、旅をより特別なものに彩ってくれる。

創建当時のままの梁や柱、格子が美しい建具、ゆがみのある大正ガラス、タイル張りの洗面台。構造上問題がなければ、傾いた壁もそのまま。建物のあちこちに残されたディテールの一つひとつに懐かしさにも似た安らぎを感じる。そして、篠山の恵みを味わい尽くすような美味と、気持ちいい挨拶を交わしてくれる地元の人たち。まるで町全体に抱かれているような心地よさは、ここだけの特別な体験だ。

2020年までには、10棟30室を目指すという。これからホテル、町、人がどのように溶け合っていくのか。展開が楽しみだ。